

三橋かずし

利権政治か 改革断行か 32才



正義を貫く 信念と実績 生命を守る政策を

1 防災施策の徹底、財源措置

- 同報系防災行政無線（防災スピーカー）の完全整備を実現。**奈良市への2億1千万円の国庫補助も獲得しました。**
- 可聴区域図は、三橋のホームページから無料でダウンロードできます。
- 今後は、さらに各家庭、特に高齢者帯等への戸別受信機の普及を図ります。
- 避難情報の発令方法等を改善。サイレンパターンを用いた情報発信も実施します。



3 学校耐震化、通学路等道路安全対策

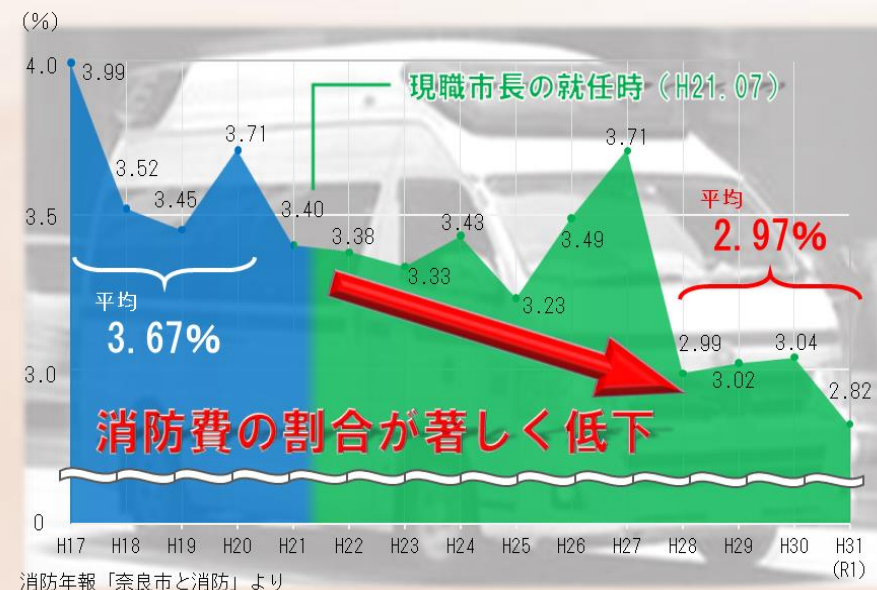
- 県立高校耐震化放置問題を追及。高校再編にも異議。
- 通学路等の安全対策後回しを指摘。今後は、さらなる安全対策に力を尽くして、**全ての危険箇所について、前倒しして実施します。**
- 通学路以外の道路や河川等の整備も推進しています。



▲ 三橋は多くの危険箇所での安全対策を実現

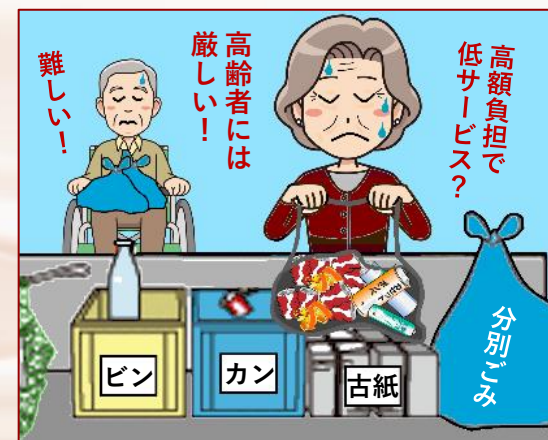
2 消防予算の異常な低水準を是正

- 消防職員数が国基準の**67.4%の水準にまで減られ、181名の不足が発覚。**是正計画の策定を実現させました。
- 三橋は、消防や救急等、日頃は市民の関心が低いものの、**生命を守る活動のための予算は優先して確保します。**
- 改革派の消防署長が報復処分を受けるなどしており、旧態依然の消防局の改革が必要です。



4 置き去りにしない福祉、高齢者支援

- 家庭ごみの分別について、多くの高齢者が困っています。家庭ごみの分別は12種類にも指定され、**市民は他の自治体よりも厳しい負担が強いられています。**三橋は、ごみ焼却場を早期建替えを求め、分別について丁寧な支援を推進しています。
- 高齢者や障害者の方が不自由なく暮らせるよう、交通の充実を図り、交通費助成を推進しています。
- 子どもセンターが開業しますが、その運営体制は極めて杜撰な実態で、人員も国の定める最低水準しか配置されません。パフォーマンズ政治を改め、子育て支援、生活支援を拡充する必要があります。

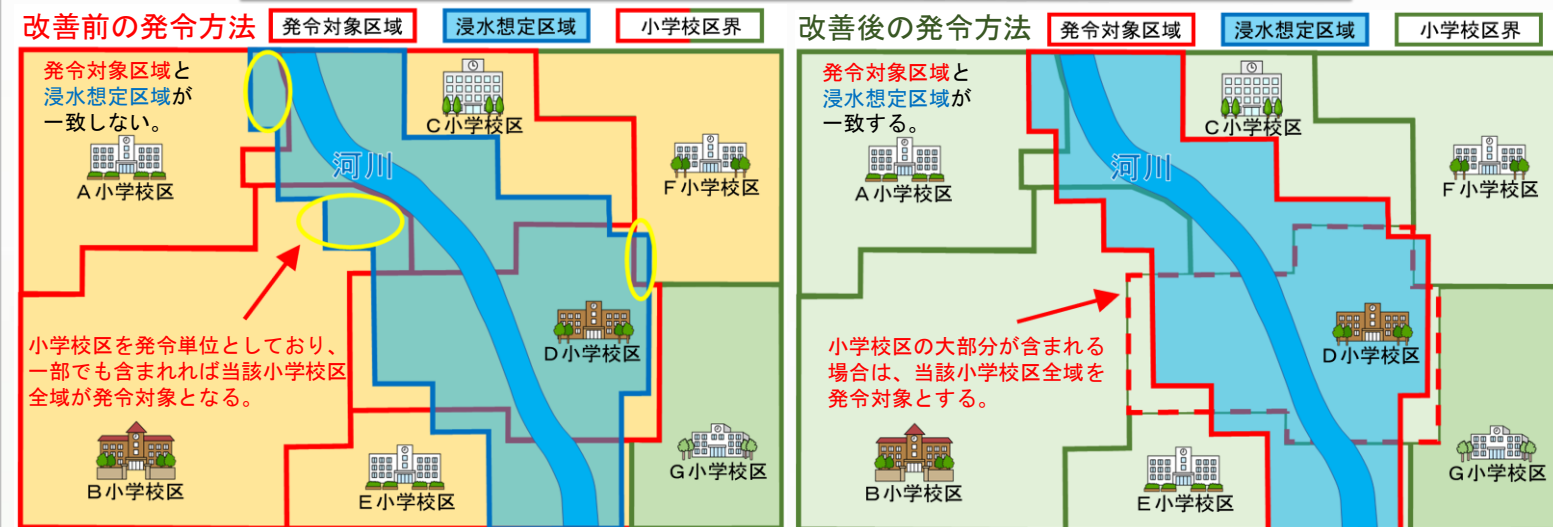


▲ 建替えが先送りされ続けているごみ焼却場の性能が悪いため、他の自治体よりも厳しい分別が求められている。

プロフィール

- 【現在】 奈良市議会議員(総務委員会、厚生消防委員会など)
(政党:無所属)
- 【生まれ】 昭和63年(1988年)12月22日(32歳)
- 【学歴】 奈良県立奈良高等学校 卒業
明治大学政治経済学部政治学科 卒業
大阪大学大学院高等司法研究科 修了(法務博士)
- 【職歴】 株式会社南都銀行総合職
奈良県庁行政職(災害対策、行政広報、税務等を担当)
- 【座右の銘】 正しき者に勝利あり

避難情報の発令方法等を改善



- 市は、従来、避難指示等の避難情報の発令対象について、小学校区を一つの単位としていました。しかし、これでは、小学校区内の一部の地域に避難の必要が生じただけで、その小学校区全域に避難情報を発令することとなり、実際には必要がない地域にまで避難を呼び掛けてしまっていました(↑上左図)。三橋の調査と提案により、市では、**発令対象について、原則、小学校区を一つの単位とすることをやめ、「二条大路南一丁目」などのように町名単位とすることとしました。**これにより、一層的確な地域に避難情報を発令することができるようになりました(↑上右図)。
- 完全整備を実現した同報系防災行政無線(防災スピーカー)では、さらに三橋の提案により、**警戒レベルに応じて、サイレンパターンを使い分ける運用を開始しました。**サイレン吹鳴後に、言語情報が続けて放送されます。

警戒レベル別 サイレンパターン	
緊急安全確保 (警戒レベル5)	10秒吹鳴 → 5秒停止 → 10秒吹鳴
避難指示 (警戒レベル4)	5秒吹鳴 → 5秒停止 → 5秒吹鳴 → 5秒停止 → 5秒吹鳴

身近な危険箇所の安全対策



- 市道の補修すべき箇所が長年放置され、道路の瑕疵による事故によって、市が損害賠償請求されている事案が多数に上ります。
- 道路、公園、河川の多くの危険箇所の安全対策を実現しましたが、一層の整備を図ります。



▲ 三橋は多くの危険箇所での安全対策を実現

新型コロナウイルス感染症対策



▲ テレビなどでも報道(画像は毎日放送等より)

- 市が開設したワクチンコールセンターにおける接種予約の受付体制について、市は議会答弁で「30回線の専用電話を用意した」と説明していましたが、**実際には半分の15回線も電話の受話器を外したままにしていたことが発覚。**仲川市長の不誠実さを指摘し、改善を求めました。
- 市は、感染症対策のための国の補助金で、感染症対策とは全く関係のない「起震コンテナ(地震体験装置)」を約5000万円もかけて購入しました。三橋の指摘を受けて、国は不適切な支出との見解を示しました。医療従事者や市民生活の支援に充てるべきだと指摘しました。

- 中華人民共和国湖北省武漢市での感染症の流行を受けて、三橋は、令和2年1月下旬から2月初旬という早い時点で、市健康医療部(保健所)に対して、マスクや消毒液等の備蓄に万全を期するよう申し入れました。しかし、実態は、行政計画に定められていた備蓄さえも怠り、全く備蓄されていなかったことが発覚しました。
- 行き当たりばったりの対応が目立っていましたが、学校等における基礎的な感染対策の実施を推進しました。
- 救急隊への予算が大幅に削減され、1件ごとに使い捨てる仕様の**感染防止衣を半年間も使い回しさせていることが発覚。**消毒可能な再利用仕様を導入しました。
- 仲川市長が感染症対策の行政情報を私的に利用している問題。感染が確認された市内在住の男性が、市長SNSアカウントで発症日を誤って公表され、発症後も出勤していたことにされ、本人及び家族が職場や学校で非難的にされる事態にも発展しました。三橋は、市長による行政広報の私物化の問題を指摘し、是正を求めました。



▲ ワクチンコールセンターで、電話が繋がらないように外したままにされた受話器(奈良新聞)